



**田島 秀二 社長**  
1948年生まれ。  
1976年、アドバンテック東洋入社。  
1989年同社入社後、同年取締役を経て、代表取締役社長就任(現任)。  
1996年、ユニテック代表取締役社長就任(現任)。

プレシジョン・システム・サイエンス

7707・マザ

## DNA自動抽出装置メーカー 診断分野で飛躍を目指す

刑事ドラマで度々登場する「DNA鑑定」。これに用いられるDNA自動抽出装置を製造しているのがプレシジョン・システム・サイエンス(以下・PSS)だ。

主にOEMによる製造販売を行っているため知名度は低いですが、大手総合医薬品メーカーロシュ、遺伝子抽出試薬メーカーで世界トップのキアゲンといった世界的な企業に対して製品の提供を行っており、DNA自動抽出装置としては、世界のおよそ50%のシェアを占めている。

磁力によって遺伝子情報だけを抜き出す「マグネトレーション技術」により自動化を実現。バイオ関連業界における研究所や検査センターなどで導入を図ってきた。

近年は自社ブランドの販売拡大や新規領域として診断分野への商品の拡充により、成長を図っている。

| DATA             |                    |
|------------------|--------------------|
| 直近株価             |                    |
| 395円 (3/1終値)     |                    |
| 単元株数             | 決算月                |
| 100株             | 6月                 |
| 2017年6月期通期連結業績予想 |                    |
| 売上高              | 44億円<br>(前期比1.3%減) |
| 営業利益             | △5億9,000万円<br>(-)  |
| 経常利益             | △6億1,000万円<br>(-)  |
| 純利益              | △6億2,000万円<br>(-)  |

「これまで遺伝子診断の自動化システムは利用用途が研究が中心でしたが、これからは臨床診断が大きく伸びてくると見えています」(田島秀二社長)

医療機関で使用されるDNA自動診断装置を中規模の病院向けに既に販売しており、今年からは小型・低価格化に成功した新製品を販売開始。数百万円程度で購入できるため、将来的には中小規模の診療所・病院向けとして病気の早期発見を目的としたDNA診断が用いられることを見込んでいる。

「デング熱や子宮頸がんをはじめウイルス性疾患の早期発見や、それを治療するワクチンに対する個人毎の副作用検査など、診断のマーケットはこれから伸びていく分野になるでしょう。自動診断装置の販売数は、売り出し始めから比べると2倍まで伸長しています。これは、量産に適したシンプルな

構造の製品を開発できたからです。弊社はこの自動診断装置を月に100台以上販売することを目標とし、診断領域の市場を作っていきたいと考えています」

自動診断装置取扱は、あくまでもマーケットシェア獲得のための切り口だと田島社長は語る。

「診断領域進出の一番のターゲットは、診断をする際に使用される試薬の販売です。コピー機に付随してトナーが売れるようなもので、将来的に試薬販売の売上構成が高まっていくことを見込んでいます」

同社はこれまでも一部の試薬製造はOEMで、検査に必要なプラスチック容器は完全に自社製造販売を行ってきた。試薬製造のための工場を千葉県松戸市に新設し、ストック収益として試薬取扱に注力する考えだ。

また、新たな市場開拓として、海外展開も計画している。特に、東南アジアや中国などDNA診断が未だ一般的となっていない地域へ、自社ブランドで提供していく。

「例えばタイにおけるエイズ検査など、需要はあるもののマーケットが未成熟な地域に対しての需要を見込んでいます」

田島社長は、全ての医療施設にDNA診断を導入したい、と社会貢献の観点でもDNA診断領域への進出に意欲を見せている。